

-バル・ウォッチ

水トレンド&プライス

木 Step Up ENGLISH

金

ぱーそん

燃料や食料として利用できる藻の研究開発が盛り上がりしている。1970年代、90年代に続く第3次藻ブームの到来ともいわれる。バイオベンチャーのユーゲレナは今夏、横浜市に藻の一種であるミドリムシから抽出した油などから、ジェット燃料をつくる実証プロジェクトを着工する。福島県では土着の藻類を育て、油を取り出す研究プロジェクトが動き出した。三度目の正直として花開くか。

「東京五輪・パラリンピックを開く2020年にミドリムシの油を使うバイオ燃料で有償フライトを実現する」。ユーゲレナの出雲充社長(36)は意気込む。

05年に出雲社長らが設立したユーゲレナは世界で初めてミドリムシの屋外での大量培養に成功。ミドリムシは食物繊維やビタミンなどを多く含み、栄養価の高い健康食品として普及させってきた。次に目指すのがミドリムシから取った油をバイオジェット燃料として使う技術開発だ。約30億円を投じて横浜市に実証プラントを建設する。

「ミドリムシで飛行機を飛ばす」。この未知の事業への参入を後押しした

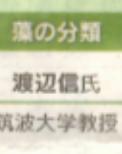
藻から燃料めざせ事業化

「三度目の正直」なるか

「第3次藻ブーム」が到来した

第1次ブーム 1970年代半ば~

第2次ブーム 1990年代初め~



第3次ブーム

技術支援



出雲充氏
ユーゲレナ社長
久野正雄氏
ANAホールディングス
コーポレートブランド・
CSR推進部マネジャー



西江晴男氏
DIC顧問
松本光史氏
Jパワー主任研究員

志と知見受け継ぐ

は、こちらも藻類研究40年のベラン、筑波大学の渡辺教授(68)だ。

藻類の研究は現在、特定

の藻を育てるのが基本。

対して渡辺氏は「環境に合

った藻を育てる」。土着の藻類50種ほどを南相馬市のため池から採取し生育す

る。効率の良い濃縮方法も開発し、ジェット燃料などの活用を目指す。

企業も独自の研究を進め

る。DICはもともと、食

用色素の原料として藻の一

種「スピリルリナ」を大量培

養してきた。西江晴男顧問

(65)は2010年からこ

の経験を生かし、別種類の藻の大規模な培養技術を確立す

るため奔走する。まずは本

業のインキ原料の油として

利用する予定だ。

Jパワーは海水でも育つ藻の研究を進める。研究所に藻を回収して濃縮し、油を分離する設備を設け、1

カ所で培養から抽出まで行

う。やはり自指すはジェッ

ト燃料。松本光史主任研究員(42)は「30年に1回5

00円くらいのコストを目

指す」と話す。

藻は地球環境問題や食糧

問題を解決する切り札の一

つ。3度目の盛り上がりが

ブームに終わらず、事業化

に成功し、広く普及するこ

とが期待されている。

(企業報道部 庄司智子)